

「総合ビルメンテナンス業を掲げる大昇産業（中央区宮下本町）は、1972年の創業以来、地元・相模原に根ざしています。市内を中心にオフィスビルや工場、公共施設などのビルメンテナンスを展開。一方で、サッカーJ1チームのホームスタジアムの清掃という大規模な仕事も請け負っています。そんな同社の大瀧博行社長は2代目。創業者の親族ではなく、内部昇格で引き継いだユニークな経歴です。社長として奔走する一方、都市産業研究会の会長や官公需適格組合・さがみビルメンテナンス協同組合の代表理事も務めるなど、地域貢献にも意欲的です。今回はそんな大瀧社長にインタビューしました。

—2016年にバトンを引き継ぎました。

「生まれも育ちも相模原出身で、学校卒業後も地元で就職しました。当社には20代で転職しました。入社後は、清掃現場や営業を幅広く担当させてもらい、事業承継の準備期間を経て、先代から引き継ぎました。取締役として約5年間の役員経験を積んだ後です。もともと、若い時からいざ起業をしたいと思っていましたので、進んで引き受けることにしました」

「社長が代わり、組織がまとまるかどうか不安でしたが、従業員と積極的にコミュニケーションを取るとともに、それぞれのパフォーマンスが上がるよう、一生懸命やってきました。今と昔では働く人たちの価値観も違います。そのため、従業員に対しては失敗しても怒らず、褒めて伸ばすという姿勢を貫いています」

—「コロナ禍の影響はどうでしたか。」
「確かに、緊急事態宣言による外出自

粛やテレワークの普及などがあり、世の中ではオフィスへの出勤頻度が減りましたが、かといって経済が止まっていたわけではありません。むしろオフィスでの除菌や衛生管理に対するニーズが高まり、コロナが売り上げに対してマイナス影響を及ぼすことはありませんでした」

ビルからスタジアムまで 人材確保で成長目指す

—市内を中心に事業を展開しています。

「当社のビルメンテナンスサービスは、オフィスや工場事務所にあるOAフロア、医療施設、ショッピングモール、アミューズメント施設といった幅広い場所をカバーしています。相模原を中心に町田市や大和市といった近隣地域も含まれます。公共施設を含めると、定期的



大昇産業株式会社
代表取締役 **大瀧 博行**さん

100カ所以上に入っています。中には、サッカーJ1リーグ・FC町田ゼルビアのホームスタジアム『町田GIONスタジアム』での試合前・当日・試合後の清掃も手掛けています。同スタジアムの清掃はもう10年以上続けています」

—人手不足対策も工夫されているようです。

「この業界もそうですが、私たちの業界も人手不足が課題です。特にオフィスビルの日常清掃は、皆さんの出社前である早朝に作業するのが一般的です。朝早くから作業を始める必要はないことが、人材確保におけるネックといえます。そこで、当社ではビル管理会社やテナントなどに相談、ご理解をいただき、時間に幅を持たせることで、一律で早朝に始めなくても良いよう改善を図っています。働き方をフレキシブルにしていけば人も集まると思います。一気に拡大しようとする、現場が疲弊してしまわないので、今後は人員の拡充に合わせながら成長していきたいと考えています」